シグマ研究委員会昭和55年度第9回運営委員会議事録

日　時　　昭和５６年２月２０日（金）　１１：００～１７：３０

場　所　　原研本部　第６会議室

出席者　　塚田（委員長，日大），久武（東工大），中嶋（法大），
松延（住友原工），大竹（動燃），飯島（NAIG），
関（MAPI），原田，田中，五十嵐，菊池（原研）
オブザーバ：小山，松本，浅見（原研）

配布資料

1. 前回（５６.１.１６）議事録（案）
2. Rosen 氏からの手紙（写）
3. ガンマ線生成核データWG　５６年度作業計画
4. 核融合核データWG　〃
5. 核データ評価コードWG　〃
6. ＤＤＸ作成作業の調整会合報告
7. 核融合炉定数WGの役割
8. 遮蔽定数WGの活動と成果－１９７９～１９８０年度
9. JENDL積分評価WG　５６年度作業計画
10. ＦＰ核データWG　〃
11. 核構造データWG　〃
12. 崩壊熱評価WG　〃
13. ５６年年会核物理・核データ関係発表論文，核データ・炉物理合同特別会合

議　事

1. 前回議事録確認

資料(1)により確認を行った。

2. 事務局報告（田中）

(1) ５６年度委員

宮坂氏が核管セの事情により委員を辞めることになったことが報告さ

れ，さらに，小山氏より補足の事情説明があった。

(2) 「JENDL－3計画」の答申書をシグマ委の各委員に送付したことが報告された。

(3) NEAデータ・バンクのRosen氏 の来所

資料(2)により，東海研で3月11，12日に討議する予定の項目等について説明があった。

(4) 核図表の改訂版が出来，各委員に配布したことが報告された。

3. 各WGの55年度作業報告及び56年度作業計画(1)（各WGとも説明の内容は省略する）

(1) ガンマ線生成核データWG（五十嵐）

資料(3)により説明があった。連続スペクトル・データの扱い，核分裂γ線の扱い方について質問があった。

(2) 核融合核データWG（浅見）

資料(4)により説明があった。

Charged particle核反応データの調査などについて質疑があった。

(3) 核データ評価コードWG（松延）

資料(5)により評価コードサブWG，共鳴パラメータ評価サブWG，実験法評価サブWGの説明があった。

4. DDX作業の調整会合の報告

菊池氏から，資料(6)により調整会合の概要及び申し合せ事項等について説明があった。また，これに関連して来年度より発足する核融合炉定数WGの進め方について資料(7)により説明があった。なお，このWGを独立させるかどうかについては，遮蔽定数WGとの関連で検討したいとのことであった。

5. 遮蔽定数WGの今後の問題

小山氏より，遮蔽定数WGのこれまでの活動の概要と今後の進め方について資料(8)により説明があった。その中で，来年度は活動を縮小したいこと，今後の進め方については3月6日のWG会合で検討するが，新たに発足するDDX作業のWGの中の1つのブランチとして継続させたいことなどが説明された。これについて討議を行い，DDX作業グループに従来の

遮蔽定数WGを含めて核融合炉・遮蔽定数WGとし，リーダは中沢氏（東大工）とすること，遮蔽定数サブWGのメンバーは3月6日の会合で決めることにした。

6. 各WGの55年度作業報告及び56年度作業計画(2)

(1) JENDL積分評価WG（菊池）

資料(9)にもとづいて今年度活動の概要と来年度の予定の説明があった。これに対して，一般化摂動論からのNa ボイドの解析等について討議があった。

(2) FP核データWG（飯島）

資料(10)により説明があった。optical modelパラメータの選択の問題，Fe の共鳴パラメータ等について議論があった。

(3) 核構造データWG（松本）

資料(11)により，55年度作業および56年度計画について説明があった。また，瀬尾氏（京大炉）をWGメンバーに加えたいとの説明があり，了承された。

(4) 崩壊熱評価WG（中嶋）

資料(12)にもとづき，FP Decay Data Library Iが完成したこと，来年度には崩壊データの本格的な感度解析を行う等の説明があった。また，56年度よりグループ・リーダを松本氏（原研）と交代したいとの報告があり，了承された。

なお，時間の関係で他のグループの説明は次回に廻すことにした。また，久武氏より，燃料サイクルデータWGは本年度で終了する予定であったが，未だまとめの作業が残っているので来年度も残す方向で検討したいとの説明があった。このため，次回に，WGリーダの梅沢氏に詳しい説明をしてもらうことにした。

7. ヨーロッパ核データ・ライブラリーへの寄与について

五十嵐氏より，この件に関して原研核データセンターで行った討議の結果について，次のような報告があった。phase I の作業はわれわれのJENDLと同じ作業であり，また内容もはっきりしているので，この作業に参加することに問題はない。しかしながら，その後の作業についてはJENDL－3の作業とからむ上に，情報も十分でないので様子を見極めて

から対処したいとの説明があり，大筋については了承された。また，これに関連して，参加する場合には政府筋の了解が必要ではないか，この件についてNEANDCで話が出ないのはおかしい等の意見があった。

なお，この件について，3月26日にシグマ特別専門委員会を開いて討議することにしていたが，討議するには情報がまだ不十分であることから中止することにし，学会の特別会合（3月28日）で討議することにした。また，この旨を本委員全員に連絡することにした。

8. その他

(1) 久武氏より，核構造・崩壊データ専門部会長を交代したいとの申し出があったが，討議の結果，もう1年続けてもらうことにした。

(2) 松延氏より，学会企画委員の核物理関係の次期委員の候補推せんについて説明があり，議論の結果，出された意見を勘案して処置してもらうことにした。

(3) 原田氏から，IAEA NDS の岡本氏よりの依頼のmedical 核データの日本のrequest のまとめについて説明があり，対処方について討議を行った，その結果，喜多尾氏（放医研）を含め，東京近効の関係者を集めて議論をしてみることにした。なお，この会合は核構造・崩壊データ専門部会内のad-hoc会合とすることで了承された。議論の結果は，運営委で報告し，今後の方針を決めることにした。

(4) 五十嵐氏より，JENDL関係を学会誌に資料として投稿する件について報告があった，JENDL－3計画の執筆の責任者に田中氏がなったこと，中性子共鳴の実験と評価の執筆分担案について説明があった。

次回は，4月17日（金）13：30より東海研で行う予定。